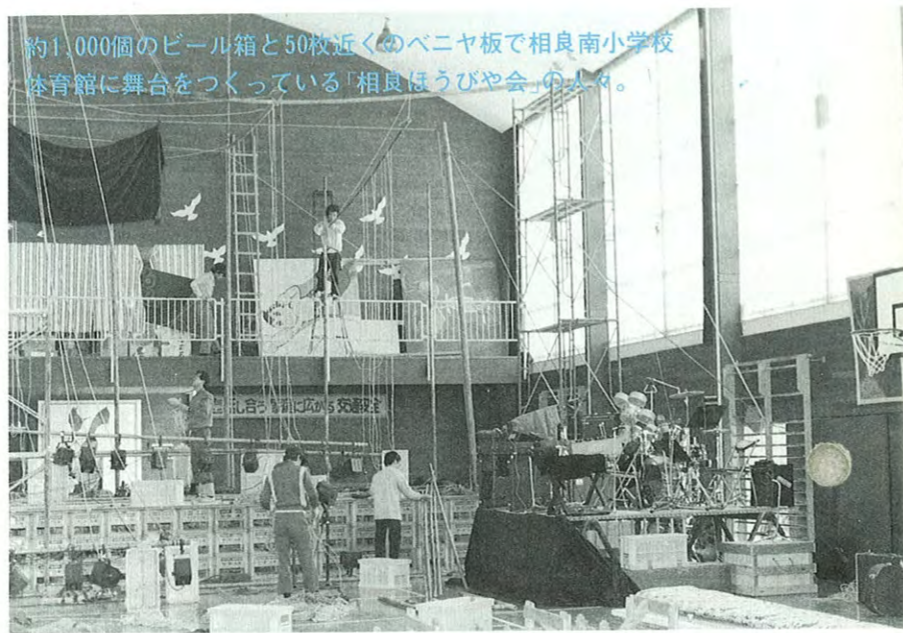


県民による手づくりの文化を

— 文化施設の充実と県民文化活動の隆盛 —

自然と文化の調和に根差した活力ある郷土づくりを推進しようと、各地で個性的な文化活動が行われています。



約1,000個のビール箱と50枚近くのベニヤ板で相良南小学校体育館に舞台をつくらせている「相良ほうびや会」の人々。

✓できるようにと、「農村ミュージカル」として親しまれている地方回りの劇団が、過去に二回四年毎にやっ
て来ており、前回から四年目に当たる今年も是非公演してもらい、成功させようと、「相良ほうびや会」という実行委員会が二月二十六日に結

▼八代市厚生会館の自主文化事業の一環として、五年前から市民文化教室の中で「生活芸術講座」が開設されていますが、これは生活に密着した文化の育成という点で注目されます。厚生会館では、従来舞台芸術の鑑賞普及にとめてきましたが、市民の美的能力や感覚を養うため、実習や作品の製作を通して芸術に親しめるような講座を開設したとのこと。この講座は、音楽や美術その他あらゆる芸術に触れさせるところに特徴があり、講師の坂田道朗氏は、「夢のような話ですが、市民の皆さんが、普・段・着・の・文・化・に・つ・い・て・理・解・を・示・さ・れ・、八代独自のカラーが生まれれば…」と語っておられました。



「相良ほうびや会」のメンバーによる手づくりの舞台で、「親父と嫁さん」と題するミュージカルが熱演された。

▼一方、文化団体を招いて、地域に文化の灯をともしようと活動しているグループがあります。相良村では、居ながらにして舞台芸術等の鑑賞が、



美術・音楽にかぎらず、あらゆる芸術に触れることのできる「生活芸術講座」は、八代市厚生会館のユニークな事業の一つである。